平成27年度　学校経営計画に対する最終報告書

石川県立羽咋工業高等学校

重　点　目　標	具　体　的　取　組	達 成 度 判 断 基 準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
１　生徒全員の進路実現のため、全教職員が授業改善を実践するとともに、資格取得を奨励し、学力向上を図る。	①　研究協議会の内容を改善し、言語活動の充実とアクティブラーニングの導入、ＩＣＴ機器活用により、学校全体で授業改善を行う	各教科と学科で授業改善についての取組を Ａ　各学期に３回以上取り組んだ Ｂ　各学期に２回取り組んだ Ｃ　各学期に１回取り組んだ Ｄ　全く取り組むことができなかった	教職員対象に １２月にアンケート調査 Ａ：２４％　Ｂ：６５％ Ｃ：　８％　Ｄ：　３％ 評価：Ａ・Ｂ合わせて８９％	アンケート結果は、Ａ・Ｂ合わせて８９％となり判定基準の８０％をクリアした。今年度はＩＣＴ機器活用に加えて「アクティブラーニング」を全教科に導入し、２学期を中心に多くの「研究授業」「公開授業」「互観授業」を実施した他、「言語活動の充実」を意識した取組も継続し、全教科で書画カメラ等のＩＣＴ活用が増加したためと考えられる。 次年度も、判定基準を継続し、「研究授業」「公開授業」を充実させ、授業改善の質を高めていきたい。
	②　学力向上を図るために教科の課題やレポートの出題方法と回数を工夫するとともに、授業と資格取得の補習指導を通して家庭での学習習慣を身に付けさせる。	課題・レポート・資格取得などや家庭での学習活動について Ａ　十分取り組むことができた Ｂ　おおむね取り組むことができた Ｃ　あまり取り組むことができなかった Ｄ　全く取り組むことができなかった	生徒対象に １２月にアンケート調査 Ａ：３６％　Ｂ：５３％ Ｃ：　９％　Ｄ：　２％ 評価：Ａ・Ｂ合わせて８９％	アンケート結果は、Ａ・Ｂ合わせて８９％となり、目標の８０％をクリアできた。Ａの増加が中間評価時のまま継続できた為と考えられる。近年の、朝・昼・放課後・夕方以降の補習時間の増加により減少していた家庭学習がようやく３年前の水準に戻り、別の調査の家庭学習時間の「ほとんどしなかった」も３３％で、初めて５０％台から３０％台になった。 次年度に向けて、改善傾向にはあるが、まだ補習に依存しているため、判定基準を継続し、補習後も家庭学習を行うような指導の工夫により、家庭での自発的学習を促したい。
	③　全教員が愛読書を薦めたり、昼食時の出前図書などの読書運動を全校的に行い、生徒に読書の習慣を身につけさせる。	２学期末での貸し出し図書数が Ａ　１２００冊以上 Ｂ　１０００冊～１１９９冊 Ｃ　８００冊～９９９冊 Ｄ　８００冊未満	１２月に調査 １２月末の貸出数１，７８８冊 評価：Ａ	今年度のＡ評価基準は昨年度の集計結果を踏まえ、４５０冊以上から１２００冊以上と大幅に変更したが、１２月末の貸出数は昨年度より２１７冊多く、１，７８８冊となった。今年度は６月から１月にかけ、図書館棟大規模改造・耐震補強工事があり、昨年並みの読書推進活動があまり出来なかったが、１１月からの「出前図書」と校内放送を利用した「先生がお薦めのこの１冊」運動がよい成果を収めた。 次年度も更に工夫し、貸出数の増加に努めたい。
	④　資格・検定取得の説明機会を増やして受験を奨励するとともに、土曜授業や課外補習を充実させ合格者数を増加させる。	１月末での資格・検定試験延べ合格者数が学校全体で Ａ　８００人以上 Ｂ　７００人～８００人未満 Ｃ　５５０人～７００人未満 Ｄ　５５０人未満	１月末の資格・検定試験 合格者数を検証 １月末現在は８８１人 評価：Ａ	１月末現在の集計では、資格・検定試験合格者数は８８１人となり、判定基準であるＡ評価（８００人以上）を達成できた。２学期以降に受検した多くの資格・検定について、土曜授業をはじめ、工業３学科・クラス担任の連携した受験奨励および補習(朝･昼･放課後･夜)の充実等により目標が達成できたと考えられる。 今年度は昨年度の同時期に比べ合格者数がやや少なく、前年度をやや下回ることが予測されるため、次年度も判定基準を継続させ、受験奨励と指導の充実により合格者数を増加させ学力向上と進路実現に繋げたい。
	⑤　ジュニアマイスターのゴールドおよびゴールド特別表彰、シルバー、校内顕彰ブロンズの取得を目指し、学校全体で多くの資格・検定への挑戦意識を高めて認定者数を増加させる。	ジュニアマイスターゴールドおよびシルバーの認定者数が学校全体で Ａ　６０人以上 Ｂ　５０人～５９人 Ｃ　４０人～４９人 Ｄ　３９人以下	１月の申請者数を検証 ９２人 （ゴールド　４１人） （シルバー　５１人） 評価：Ａ	１月末現在の集計で、ジュニアマイスター顕彰申請者の延べ人数はゴールド・シルバーの合計が９２人でＡ評価となった。また、「ゴールド特別表彰」についても過去最高の１３人となった。申請者数については昨年度の１０４名には及ばなかったが、「ゴールド特別表彰」については、過去最多の１３名となり難易度の高い資格に挑戦し資格や検定を取得・合格した生徒の人数が増加したことが要因ではないかと考えられる。 今年の結果に満足することなく、３年間通してジュニアマイスター顕彰認定を目指し、次年度も判断基準を継続し、学校全体で資格・検定への挑戦意識をさらに高めていきたい。
	⑥　インターンシップや地元企業説明会等により適切な進路選択を促進させるとともに、進路説明会やＬＨなどで進路に向けた情報提供を行なう。	各種進路指導行事・ＬＨなどによる説明や進路情報により、意識が Ａ　たいへん高まった Ｂ　ある程度高まった Ｃ　あまり変わらない Ｄ　全く変わらない	生徒対象に １２月にアンケート調査 Ａ：３８％ Ｂ：５６％ Ｃ：　６％ Ｄ：　０％ 評価：Ａ・Ｂ合わせて９４％	生徒対象アンケート結果、意識が高まった割合は、Ａ・Ｂ合わせて９４％となり、判定基準をクリアしている。１０月の２年生全員参加のインターンシップでは、進路選択に役立ったとする生徒の割合は、８６％であった。１２月の１，２年生全員参加の「卒業生による地元企業を知る会」では、自分の進路に役立ったという生徒は、９６％と好評であった。3月には、「先輩（大学生）と語る会」を実施した。 次年度も学年団や各工業科と協力して行事や学年ごとで必要とされる進路資料の作成、活用方法を検討し、計画的に取り組んでいきたい。
	⑦　進路希望の達成のために指導の充実を図る。 基礎学力の定着を図り、試験対策を十分に行う。 外部講師による講演や面面談・指導を充実させる。	朝学習や学力テスト、補習、面接指導により、実力が Ａ　たいへんついた Ｂ　ある程度ついた Ｃ　あまりつかなかった Ｄ　全くつかなかった	生徒対象に １２月にアンケート調査 Ａ：３５％ Ｂ：５８％ Ｃ：　６％ Ｄ：　１％ 評価：Ａ・Ｂ合わせて９３％	生徒対象アンケート結果、実力がついた割合は、Ａ・Ｂ合わせて９３％となり、判定基準をクリアしている。今年度から初めて全学年による朝学習１０分間を導入し、学年ごとに振り返り学習等のプリントを毎朝行ってきた。生徒も落ち着いて取り組んでいる。7月からは、面接指導も本試験まで繰り返し行ってきた。また進学希望者に対しては、高校の基礎固めとして６月から１月まで毎日科目を決めて補習を実施してきた。 次年度も、企業の求める人材について積極的に研究し、その力を継続的につけさせるとともに、進学希望者に対しても効果的な指導を行っていきたい。
		年内での就職の内定率が Ａ　１００％ Ｂ　９５％以上１００％未満 Ｃ　９０％以上９５％未満 Ｄ　９０％未満	３年生を対象に １２月末に調査 内定率　９９％ 評価：Ｂ	１２月までに９１名の就職希望者に対して９０名が内定し、内定率９９％であり評価基準をクリアしている。求人件数は、昨年度より地元以外の県内や関東圏を中心に増加した。主に建設業、製造業、サービス業等の増加である。地元企業に目を向かわせ、人材を送り出すことも大切な使命になっている。 次年度は、普段の指導を継続させると共に、企業が求める人材の情報を積極的に集め、計画的に対応していきたい。

学校関係者評価委員会の評価	・２月末現在で就職内定率 100%は良いことだ。長いつきあいのある地元企業への就職や離職率の低下にも十分配慮することが大切だ。 ・１月の課題研究公開発表会では、前年と同様な研究テーマの発表があったが、過去の成果をしっかり踏まえての発表をして欲しい。 ・長い高校生活の中で、生徒達の興味が変化していくこともあるので、例えば建設造形科の生徒が電気工事士の資格を取りたいと希望したときには、学校でも柔軟に支援して頂きたい。
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	・生徒の希望も重要であり全生徒が地元企業に就職ということにはならないが、生徒達が地元企業にしっかり関心が持てるよう指導していきたい。離職率は現在非常に低いが今後とも努力したい。 ・前年と同じテーマの課題研究では、過去の成果を有形無形に踏まえて研究を進めているが、そのことがはっきりわかるように指導内容や発表内容を改善していく。 ・所属学科以外の学科の学習内容に興味がある生徒には、資格取得の補習や部活動を通して、フォローしていく。

重　点　目　標	具　体　的　取　組	達 成 度 判 断 基 準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
２　心身ともに健康で逞しい人づくりのため、規範意識を高め、生徒会活動や部活動を活性化させる。	①　本校の運動部は、県高校総体・新人大会で団体・個人とも上位を目指し、高体連表彰敢闘賞を獲得する。	高体連基準総合得点が Ａ　６０点以上 Ｂ　５５点以上６０点未満 Ｃ　５０点以上５５点未満 Ｄ　５０点未満	県総体集計結果 ７１．０点 評価：Ａ	県高等学校総合体育大会の総合成績は男子１１位、敢闘賞部門で２位であった。総体ではヨット部が男女とも優勝、弓道部男子が個人準優勝しインターハイに出場した。総体でベスト８以上に入った部は、ヨット男女・ラグビー・弓道男子・バスケットボール・卓球女子・柔道・剣道であった。新人大会ではヨット部が男女とも優勝・ソフトテニス男子準優勝・柔道・弓道男子が３位であった。 次年度も敢闘賞をめざしたい。
	②　文化部で部活動への重複加入を奨励し、各部の取組や活動に、生徒が積極的に取り組み、よい成果を収める。	文化部の活動や成果に満足しているか Ａ　たいへん満足している Ｂ　おおむね満足している Ｃ　あまり満足していない Ｄ　まったく満足していない	各文化部対象に １２月にアンケート調査 Ａ：５１％　Ｂ：４２％ Ｃ：　６％　Ｄ：　１％ 評価：Ａ・Ｂ合わせて９３％	今年度はＡ・Ｂあわせて９３％となり、昨年度最終報告の８９％を上回った。 次年度も、羽工祭・高文連関連行事・工業部門の各種大会、校内外での発表など、１年を通して文化部活動を、より積極的に取り組ませたい。
	③　生徒会を中心にして行事への参画意識を高め、自主的に参加する行事にする。	生徒会行事に満足しているか Ａ　たいへん満足している Ｂ　おおむね満足している Ｃ　あまり満足していない Ｄ　まったく満足していない	生徒対象に １２月にアンケート調査 Ａ：５６％　Ｂ：４２％ Ｃ：　２％　Ｄ：　０％ 評価：Ａ・Ｂ合わせて％	今年度はＡ・Ｂあわせて９６％となり、昨年度最終報告の９１％を上回った。これは非常に高い評価であり、年間を通して意識が高かったことが伺える。 次年度も更なる工夫と多くの意見を取り入れ、生徒の自主性を育み、行事への参画意識を高めたい。
	④　倫理観・道徳意識（モラル）に関する全校一斉読み聞かせを行い、規範意識の向上を目指す。	本校の教育活動や朝の読み聞かせにより、規範意識が向上したか Ａ　十分向上した Ｂ　少し向上した Ｃ　あまり向上していない Ｄ　全く向上していない	生徒対象に １２月にアンケート調査 Ａ：４４％　Ｂ：４６％ Ｃ：　８％　Ｄ：　２％ 評価：Ａ・Ｂ合わせて９０％	生徒対象のアンケートの結果、「向上した」と回答した生徒はＡ・Ｂ合わせて９０％であり、目標の８０％を大幅にクリアした。また、本校教職員にも同様の調査をした結果、９５％が「向上している」と回答している。後期には向上させる工夫として、「いじめ」や「インターネットトラブル」などをテーマにグループでの話し合いや発表を行い、より規範意識が向上した。 次年度はこの取組も３年目を迎える。今年の結果を踏まえ、さらに良くなるよう工夫していきたい。
	⑤　保健だよりや集会、ＳＨ等を利用して、生徒の心身の健康管理についての意識の高揚をはかる。	自分自身の心と体の健康管理について、日頃から意識して生活しているか Ａ　常に意識している Ｂ　ある程度意識している Ｃ　あまり意識していない Ｄ　まったく意識していない	生徒対象に １月にアンケート調査 Ａ：１６％ Ｂ：６０％ Ｃ：１９％ Ｄ：　５％ 評価：Ａ・Ｂ合わせて７６％	Ａ・Ｂ合わせて７６％となり、昨年度最終報告の７３％に比べ意識している生徒の割合が３％増加し、目標としていた７５％に到達した。増加の要因は保健だよりの内容を分かりやすくした事や放送部による昼休みの健康への関心を促す放送の効果もあったように思われる。 次年度も判定基準を継続し、より一層、健康管理に対する意識向上を目標に取組を強化したい。
３　社会貢献や環境に対する意識を高めるため、工業学習成果の提供や奉仕活動等を積極的に行い、地域社会との連携を深める。	①　社会に貢献する大切さや必要性を認識するために、地域ボランティア活動や校外での一日一善運動を推奨する。	地域ボランティア活動や一日一善運動について Ａ　毎日必ず実践している Ｂ　できるだけ実践している Ｃ　あまり実践していない Ｄ　全く実践していない	生徒対象に １２月にアンケート調査 Ａ：３０％　Ｂ：５８％ Ｃ：１２％　Ｄ：　０％ 評価：Ａ・Ｂ合わせて８８％	今年度はＡ・Ｂあわせて８８％となり、昨年度最終報告の８０％を上回った。これは、一日一善運動や規範意識週間等の取り組みもあり、本校生徒の社会貢献意識が高まっていることが考えられる。 次年度も取組に工夫を加えながら、さらなる向上に向け啓発活動を続けていきたい。
	②　Ｗｅｂページの更新回数を多くし、学校行事や学習、部活動などでの様々な取り組みを積極的に広く公開することで、多様な教育実践を保護者や入学希望の中学生などに情報発信する。	ホームページを更新した回数が Ａ　６０回以上 Ｂ　５０回以上６０回未満 Ｃ　４０回以上５０回未満 Ｄ　４０回未満	１月までの更新回数 １１２回 評価：Ａ	本校ホームページは１月までに１１２回の更新ができた。更新方法が比較的簡便になった結果と考える。部活動の結果や体験入学等の紹介をはじめ、間近な行事等の日程もスムーズに情報発信する事が出来ている。各分掌等の複数担当者による「簡便なホームページ更新のシステム作り」については、教育センターの新方式を活用したＷｅｂページ更新方法を担当者が指導・啓発した。 次年度は、簡易管理マニュアルを作成し、ホームページの更新や内容の充実を図りたい。
	③　環境保全のこれまでの取組を向上させ、ゴミ分別や環境保全が正しく行われているかを評価し、美化意識の向上を目指す。	１８点以上の教室が Ａ　９０％以上 Ｂ　８０％以上９０％未満 Ｃ　７０％以上８０％未満 Ｄ　７０％未満	ＩＳＯ委員により　１２月に各教室を１週間調査 （１日２０点満点で評価） 平均１８点以上の教室８９％ 評価：Ｂ	１２月の調査で９クラス中８クラスが１８点以上で評価はＢであった。１８点に届かなかった１クラスも平均点は１７点台後半であり、全体として高い水準を保っている。要因としては、昼食時の放送による啓発やクラス担任の指導で、９割近い生徒に環境保全の意識が定着しているともいえる。 次年度は全クラスが目標をクリアできるように、更なる意識向上が狙える取組みを工夫していきたい。
		環境保全（ゴミの分別・節水・節電等）に取り組んでいる割合が Ａ　９０％以上 Ｂ　８０％以上９０％未満 Ｃ　７０％以上８０％未満 Ｄ　７０％未満	生徒対象に １２月にアンケート調査 よくあてはまる　４１％ ややあてはまる　４９％ 評価：Ａ　合わせて９０％	今年度はＡ・Ｂ併せて９０％となり、昨年最終評価の８９％を上回り、評価がＡとなった。本校生徒の環境保全に対する意識が高まってきいることがわかる。 次年度は、更に生徒の環境保全の意識が向上するように、生徒会や部活動を中心とした啓発活動を活発化していきたい。

学校関係者評価委員会の評価	・文化部の活動や成果に全く満足していない生徒が 1%いる。何故このような評価をする生徒がいるのか気になる。 ・部活動でランニングをしているとき、羽咋工業生の 90%は挨拶をしてくれる。私服の時も挨拶は良い。バスの乗車マナーも良い。 ・多くの取り組みでいい結果が出ているが、到達目標を決めるときは、他校を参考にしているか。自分たちが達成しやすい目標設定をしていないか。大幅に達成できた項目では、チャレンジ目標として目標値を上げてもよいのではないか。
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	・アンケート調査に「自分のしていることが思うようにいかない」と答えている生徒がおり、今後も根気強く指導したい。 ・しっかり挨拶する生徒が 100%でないと学校では失格と思っている。　今後とも、気持ちの良い挨拶、規範意識の向上を指導していく。 ・到達目標を設定する際は、前年度の良い結果を今年度も継続させたいという発想で設定する場合も多いが、高い値を設定することも大切であり考えていきたい。